



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広
編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1～P11 新役員としての抱負 [理事]

新役員としての抱負 [理事]

理事・北日本支部長 早坂 光司



日臨技理事2期目となりました。1期目に引き続き、主に精度管理、精度保証に関わる事業を担当いたします。また、今期より北日本支部長を拝命いたしました。

日臨技品質保証施設認証制度が開始され認証を継続する施設が出ている状況です。本制度は認証の可否を判断するのみならず、多くの施設が検査の精度を向上させ、全国の施設で適切な臨床検査を行えることで、より安心安全な医療提供につなげることが重要と考えます。そのためにも、外部精度管理調査を充実させ、認証を受けられる施設も増えるようサポート体制も強化していく必要があると考えます。

北日本支部長としては、この広い地域を取りまとめる重責を感じておりますが、支部学会・支部研修会の運営を通して、支部内の会員同士の交流を深めていきたいと考えています。さらに、日臨技の活動へより多くの会員の皆様に参加していただくことで組織強化にもつながっていきたく思いますので、会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ための情報を提示したいと考えています。また、現代の医療はデータに基づく意思決定がますます重要となってきました。日臨技のスマートな運営にはデータ解析を活用し、効果的な施策を策定する必要があります。そのためにはフィードバックや活動実績のデータを収集・解析が欠かせません。会員の意識調査、会員施設の状況調査のデータも、それに欠かせないデータとなります。医療は多種・多様・複雑・煩雑です。それは会員施設においても同様です。したがって、より多くの会員と施設の情報が必要なのです。引き続き調査回答へのご協力をお願いいたします。協力をいただくことによって会員のニーズを把握、それに基づくフィードバックを図ることが可能となります。また支部を代表し各支部と連携をとり、横串の通る会となるよう努める所存です。今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事・首都圏支部長 芹澤 昭彦



この度、令和6・7年度の日臨技理事として2期目を務めさせていただきます。神奈川県臨床検査技師会の会長で東海大学病院に所属しております芹澤昭彦と申します。

今期より首都圏支部長を拝命しその重責の重さを担い身が引き締まる思いです。

前期より仰せつかっております臨時実習指導者講習会（首都圏支部）、認定試験事業等・日本病理精度保証機構事業、遺伝子関連検査に関する小委員会など事業に加え、今年度からは、日臨技が推進しているタスクシフト・シェアの講習会の拡充、臨地実習の法改正による指導者の体制整備、また、がんゲノム医療や高齢化に伴う認知症ケア、医療DXの推進、大規模災害における連携などの対応力強化など支部運営を含め時代の変化に対応した技師会活動を各都道府県の皆様の連携をさせていただきながら努力し努めていきたいと思っておりますので、今後ともご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

理事・関甲信支部長 根本 誠一



令和6年度日臨技定時総会において承認をいただき、理事を拝命いたしました根本誠一と申します。3期目をとります。今期からは関甲信支部長を務めることとなりました。私の職責は医療安全管理、データ解析が主となります。医療安全の推進、医療現場における安全な医療の提供と安全性の確保は、私たち医療従事者にとって最も重要な使命の一つです。そのためには提供する医療の質を管理・評価してする必要があります。構造と工程を管理し、成果を評価する。これら一連のモデルが重要です。医療安全の新しい考え方として「レジリエンス・エンジニアリング」があります。

「Safety I」「Safety II」を含め、これらの必要性を感じています。医療安全委員会をとおり理解を深める

理事・中部圏支部長 南部 重一



この度、理事3期目となります富山県臨床検査技師会の南部です。中部圏支部長として2期目となり、支部組織の維持及び向上に尽力したいと考えております。学会や研修会のあり方についても各支部長と連携・情報交換を通じながら、よりよい会となるよう検討していきます。また専門委員会として出版委員会、共済制度委員会、定款・諸規程等改訂委員会の一員として、WGでは災害対策WG、臨地実習指導者講習会WG、臨地実習あり方WG、予算・実績管理WG、会報JAMT・JAMTマガジン編集WGに所属します。新たな委員会やWGでの活動となりますが、足手まといにならないよう学びながら務めて参ります。そして日臨技でも次世代を担う技師会幹部の養成が行われていますが、地臨技の課題でもあります。ニューリーダー育成講習会の修了者を軸に幹部養成に取り組み、若い世代の意見と取り入れ、未来の技師会・臨床検査技師像を描きながら会務を行っていく所存です。ご指導の程よろしく願いいたします。

理事・中四国支部長 榎林 秀記



この度、山口県臨床検査技師会代表としての日本臨床衛生検査技師会理事を拝命しました榎林秀記と申します。

理事3期目となり、今期から中四国支部支部長を拝命し、気持ちを新たに日臨技理事として会員目線、会員に寄り添った姿勢で会務を遂行して参る所存でございます。

少子高齢化、人口減少、病院統合など我々、臨床検査技師を取り巻く環境が大きく変化する中で課題をあらゆる視点でとらえ、臨床検査技師の機能を発揮するチャンスに変え、前向きにかつ、明るく取り組みたいと思います。現在とは確実に変化するだろう未来に向けて今、なすべきこと、考えておかなければならないことを見据え、各都道府県、支部、県技師会理事とともに模索し、さらに顔の見える連携を強化し、取り組んでいきたいと存じます。

微力ながら今後の日臨技、都道府県技師会の発展に貢献できればと存じます。会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

理事・近畿支部長 高田 厚照



今回、令和6・7年度の理事に再任することになりました高田厚照です。初めて就任した令和4・5年度は理事新人であり何もわからず、近畿支部の理事の先生方のご指導、ご支援を賜り、また日臨技の各委員会等にも所属していなかったため日臨技、日臨技近畿支部と大臨技との関係性を築くことができ、大きな問題もなく任期を終えることができました。

2期目である今期は近畿支部の理事の半数以上が入れ替わり再任の3名が支部役員を担当することになりました。支部長として近畿支部の理事の皆様方と協力して支部内外の会員の皆様方の役に立つ所存です。

今年度、執行部体制が新しくなりました。従来から言われている少子高齢化、人口減少問題、地球温暖化（毎年の豪雨災害）や大規模災害等の社会環境の変化に加え新型コロナウイルス感染症をはじめとする新たな新興感染症の出現などこれから日臨技や臨床検査技師を取り巻く医療環境は大きく変化することとなります。現在進められている事業である精度管理、教育実習指導管理者、各種認定試験などの企画、働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアだけでなく災害医療分野へのニーズの高まりとそれに対応する必然性があります。組織・学術面から支部の在り方、学会・研修会の在り方についても引き続き検討されるものとなります。近畿支部でも皆様の声や希望を吸い上げてよりよい支部運営ができるように進んでいきたいと願っています。

新執行部として今後、多くの方向性が示されると思いますが会員のために何をすべきか、という目線でこの2年間理事職を全うしたいと考えております。会員皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

理事・九州支部長 倉重 康彦



この度、2期目となる日臨技理事・九州支部長を拝命いたしました福岡県臨床衛生検査技師会の倉重康彦です。令和6・7年度の新体制を迎え新たな気持ちで取り組んでいきたいと思います。まずは九州支部長として九州8県支部内の実情や要望等を理事会に集約、反映させ、九州支部の円滑な運営を図ることに注力したいと考えます。また、今後任命される職務に関しては、積極的な意見を述べ、事業実現のために前向きに尽力いたします。タスク・シフト/シェア厚生労働大臣指定講習会の受講率や定時総会議決権行使率の低迷を実感するにあたり、会員のニーズなど技師会に何が不足し必要なか考えさせられているところです。職能団体としての存在意義を会員に啓蒙する必要性を強く感じます。年齢を問わず全ての会員が技師会の存在意義を十分理解して、能動的に参画していただけるような体制構築が必要と実感いたします。その結果として、臨床検査技師の認知度向上・専門知識の普及を実現できるよう努力したいと考えます。

理事 細谷 隆一



令和6・7年度の日臨技理事を拝命いたしました群馬大学医学部附属病院の細谷隆一です。日臨技理事は初めての就任となります。厚生労働省指定講習会WGと季刊誌『ピペット』編集WGを担当させていただきます。

2015年にスタートしました検体採取等に関する指定講習会は2020年に再開され、再開後は実務委員としてほぼすべての講習会運営に携わってまいりました。受講希望者は減少しておりますが、依然として会員の3割弱が未受講の状況が続いており、効率的な啓

発、運営の必要性を感じております。また、各都道府県技師会のご尽力により開催しておりますタスク・シフト/シェアに関する指定講習会は会員の3割強が受講完了している状況です。会員数規模により進展に差が大きいと、担当技師会の負担を最小限にとどめながら効率的な講習会運営ができるよう努力してまいります。

国民向け季刊誌『ピペット』は創刊から11年（44号）が経過し、創刊当時から主な掲載内容は変わっていないため再検討の時期であると考えます。コロナ禍での検体採取やPCR検査を通じて臨床検査技師は以前よりも知名度は上昇しましたが、一般読者からの率直なご意見に耳を傾け、より求められる内容・誌面構成を行ってまいります。

微力ではありますが、会員の皆様に寄り添った日臨技運営に尽力する所存ですので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

理事 奥沢 悦子



この度、日臨技理事を拝命いたしました青森県臨床検査技師会の奥沢悦子と申します。均霑化がやや困難と思われた本州最北端に位置する本県にとっては、新型コロナウイルス感染症を機に、遠隔地とのコミュニケーションが比較的容易となり、研修会・学会への参加・新しい出会い・時間・距離・費用等において大きな変革がもたらされました。今後、待ったなしの医療DXも、へき地医療において大きな恵になるものと捉え、地域の特性を踏まえた医療体制に対応できる次世代の臨床検査技師の人材育成とともに在宅医療、プレホスピタルなどの臨床検査への対応に繋がっていきたいと思います。一方でコロナにより疎遠になりがちであった交流を取り戻し、夢を分かち合い、ともに未来を歩んで参りたいと存じます。微力ではございますが、日臨技と青臨技との懸け橋として、何よりも日臨技の発展と臨床検査技師の地位向上のために精進いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

理事 千葉 寛



この度、日臨技理事を拝命しました岩手県臨床衛生検査技師会 副会長の千葉寛と申します。日臨技理事会務として病棟業務に関わる事業の担当となりました。近年特にタスク・シフト/シェアが医療全体のキーワードとなって、推進されております中、入院患者に対する職員人数配置は非常に多いものの、我々臨床検査技師の配置は定まっていない現状があります。医師、看護師、理学や作業療法士、栄養士などが病棟で事前説明から状況確認しながら実施をしている現状を踏まえても、当職種の介入内容が非常に沢山ある指摘も頂戴しています。新任のため日々勉強しながらの活動ではあります

が、丁寧に連携をとっていきたいと思います。精一杯取り組んでまいりますので、ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

理事 鈴木 里香



この度、2期目の日臨技理事を拝命しました宮城県臨床検査技師会 会長の鈴木里香です。日臨技会員は女性が圧倒的に多くなっています。男女共同参画の推進を目指し、今期は女性理事が10名に増えました。会員の皆様のご協力のもと、中小規模の市中病院での職歴と自身のライフサイクルに応じて技師会活動を行ってきた経験を活かして、ワークライフバランスを考慮した多様性のある日臨技活動の推進に貢献したいと考えます。

委員会・WGは季刊誌『ピペット』編集WG委員を継続、新たにシステム委員会、災害対策WG、臨地実習指導者講習会WG（担当理事兼務）の委員となりました。宮臨技は今年6月に宮城県との災害時協定を締結いたしました（4例目）。災害対策WG委員として、全地臨技の協定締結取り組みの後押し、他団体との連携推進、能登半島地震で活動実績のある「有事の際に実働可能な体制」を更に整備して行きたいと思います。どの委員会・WGも臨床検査技師の職能団体としての日臨技の今後に深く関係するものですので、甚だ微力ではありますがしっかりと務めたいと思います。会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事 清水 盛也



日臨技理事2期目を拝命いたしました秋田県臨床検査技師会の清水と申します。1期目は時の流れが速い中、色々な経験をさせていただき、何より各都道府県からの代表理事との出会いも貴重な体験となっております。横地会長のもと新執行部体制となりましたが、会員皆様の技師会への関心を高めるためにできることを考えて行ければと思います。今年度定款規程改訂に必要な議決権行使2/3以上になったのが定時総会前日の締切り2時間前であったという現実にも問題ありと感じる次第です。

日本全国の人口が減り続け、特に地方での高い減少率、少子高齢化、医療全体での環境の変化も踏まえ、今一度足元をも見つめ直し現状と課題に向き合い得ることから提案して行ければと思います。容易い事ではございませんが、次世代に向けて国会議員輩出への取り組みや臨床検査技師連盟との連携も重要と考えます。

会員皆様が興味を持って、更なる飛躍できる環境作りの一助になれるよう尽くして参りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

理事 植木 哲也



令和6・7年度の日臨技理事を拝命いたしました植木哲也と申します。理事2期目になります。北日本支部、山形県臨床検査技師会からの選出です。日臨技での所属委員会は検査と健康展WG、災害対策WG、日臨技からの派遣委員として日本検査血液学会認定骨髄・血液検査技師制度協議会同審議会委員、日本サイトメトリー学会サイトメトリー技術者認定協議会同審議会委員です。横地会長の「会員とともに考え会員とともに挑む」というキャッチフレーズ、スローガンのもと、北日本支部活動においては学会や研修会の円滑な運営に努め、下流に位置する山形県まで清らかな水が隅々まで行き渡るよう、また、上流まで見渡しの良い景色が見渡せるようタイムリーかつスピーディーな情報共有・伝達・発信に努めていく所存です。臨床検査技師の職域確保、認知度向上いろいろな課題解決に向けて、とにもかくにも自身の健康に留意しながら微力ではありますが会務を全うしたいと思います。会員皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

理事 松田 美津子



この度、日臨技理事を拝命しました松田美津子と申します。また、今年度より福島県臨床検査技師会 会長を拝命いたしました。

日本では少子高齢化に伴う労働人口の減少が進む中、医療界は変革を迫られています。私たち臨床検査技師も「多様性」や「多職種連携」などが求められていますが、何をどのように対応すべきかわからない会員もいらっしゃると思います。職能団体である日臨技の事業は多岐にわたっていますので、私自身も勉強を重ねつつ皆様と一緒に考えて実践していきたいと思っています。

委員会としては認知症WG、認定認知症領域検査技師制度試験WGおよび臨地実習のあり方WGの担当となりました。認知症への対応が国家的問題となっている昨今、臨床検査技師もその関わりを深めていかなければなりません。また、臨地実習は学校で学んだ知識や技術を実践の現場で統合させて立派な検査技師の育成の基礎となる重要なものです。新米理事として、微力ではありますが精進して会務にあたりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

理事 谷中 弘一



この度、栃木県臨床検査技師会の代表として日臨技理事を拝命しました谷中弘一と申します。理事として新任でございますが、日臨技と栃臨技の架け橋になれるように精進して責務を果たすように努めてまいります。

現在、日々変わりゆく医療・社会環境の中で、臨床

検査技師に向けられる注目は高まっていると思います。タスク・シフト/シェア、検査説明、検体採取業務、在宅医療への参画、災害対策など臨床検査技師の活動する場は、検査室に留まることなく、正しく臨床の現場、検査室の外での活動を実践していくチャンスではないでしょうか。

今後を背負って立つ若人や臨床検査技師を目指す方たちのためにも、業務を縮小することなく、日臨技を会員皆様一人一人に必要とされる職能団体として発展していくように微力ながら、日臨技の活動に関わっていく所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

理事 井田 伸一



この度、日臨技理事に就任いたしました群馬県臨床検査技師会の井田伸一と申します。まずは昨年開催した第72回日本医学検査学会では、全国の技師会役員並びに会員の皆様に多大なご支援をいただきましたこと、学会長として心から御礼申し上げます。

日臨技理事は2期目となります。前期は会長候補者推薦、今期は群馬県臨床検査技師会選出理事としての就任となりますが、今までどおり臨床検査技師のためという思いで課題に取り組み、しっかりと責任を果たしていきたいと思っています。災害時において、また、今後来るであろう感染症パンデミックに対し臨床検査技師が貢献できることは多くあると思っています。今期は群馬県臨床検査技師会の会長を退任いたしましたが、在任中に行った県との災害協定締結、新型コロナワクチン接種への協力、群馬県感染症予防計画の策定に関わったことなどの経験を日臨技理事としても活かしていきたいと考えています。

臨床検査技師の認知度向上、社会的地位の向上に少しでも貢献したいと思っていますので、ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いいたします。

理事 猪浦 一人



この度、埼玉県臨床検査技師会の代表として、先の総会において令和6・7年度の日臨技理事を拝命いたしました埼玉県済生会加須病院の猪浦一人（いのうらかずと）と申します。

新型コロナウイルス感染症も5類となり1年が経過し、コロナ前の日常にほぼ戻った感があります。技師会活動においてもWebから対面が主体となり、活発で人と人が繋がる活動を取り戻してきております。このような時に日臨技理事として活動できることを幸に思うと同時に責任の重さを感じております。

役務としては担当理事として、認定一般検査技師制度審議会と、診療報酬委員会の委員として活動の場をいただきました。

認定一般検査技師制度に関しては、自分を育ててくれた一般検査ということで思いも強く、一般検査を行う技師の目標にふさわしい認定制度の継続、何より認

定で得られた知識を臨床の現場で生かせるよう、研修会WGの一員として尽力する所存です。

また診療報酬委員とし、会員の皆様からご意見を踏襲し、増点、加算など一つでも多くの要望が実現できるよう励んでまいります。

日臨技理事1年目の私ではありますが、先輩理事に振り切られないようしがみつki、微力ながら業務を遂行していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

理事 多田 正人



この度、2期目となりますが、会員の皆様からご支援を賜り、令和6・7年度の日臨技理事として拝命いたしました山梨県臨床検査技師会の多田（おおた）正人と申します。よろしくお願いいたします。昨今のとても厳しい医療現場でございますが、日臨技と各都道府県技師会の結束が、組織力の強化に不可欠と考えます。少子高齢化社会の中、さらに厳しさが増す医療現場において、タスク・シフト/シェアなどの業務拡大・チーム医療に貢献し、臨床検査技師の認知度向上と臨床検査の普及啓発を行い、国民の健康の保持・増進に向けて努力いたします。臨床検査技師を取り巻く環境が変わる中で、今我々に求められる医療、社会に貢献する方法を多角的に模索し、良質な医療を提供することが礎になると確信しております。

会員の皆様が必要とする情報を発信し、会員からの要望を伝え、日臨技の新たな動向を会員へ伝えるパイプ役として、微力ではありますが日々研鑽し、会の発展のため任務を遂行する所存です。会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事 綿引 一成



令和6年度定時総会において、令和6・7年度日臨技理事を拝命いたしました千葉県臨床検査技師会の綿引と申します。首都圏支部では学術部長として支部長を支え、円滑な支部運営ができるよう努めてまいります。医療の現場は絶えず進化しており、多様化するニーズに応えるために、私たち臨床検査技師の役割は一層重要になってきていると思います。新役員として、日臨技理事の職責を理解し、日臨技の発展に尽くしてまいりたいと思います。特に、日臨技と都道府県技師会の連携・組織力強化、臨床検査技師の地位向上と職域拡大が重要だと考えております。今期担当を仰せつかりました出版委員会、全国・支部学会あり方WG、厚生労働省指定講習会WG、検査と健康展WG、システム委員会、IFBLS2026準備委員会を通じて、情報の発信、学会の運営、研修の実施、臨床検査を通じた健康啓発活動、システムの改善に努め、会員の皆様に貢献できるよう微力ながら努める所存です。皆様とともに、さらなる発展を目指して精進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事 滝野 豊



令和6・7年度の日臨技理事を拝命いたしました石川県臨床衛生検査技師会の滝野豊と申します。石川県臨床衛生検査技師会と日臨技を繋ぐ役割を担うことを考えていましたが、先日の理事会で日臨技理事として日臨技の活動を担っていく重要な役割があることを自覚しました。担当するのは、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師審議会、出版委員会、災害対策WG、厚生労働省（厚生労働大臣）指定講習会WG、診療報酬委員会と多岐に渡っています。病院勤務を22年経験し、現在北陸大学で臨床検査技師を養成している視点から微力ながら注力したいと考えています。

石川県は令和6年1月1日に能登半島地震が発生しましたが、半年以上経った今でも1次避難所で多くの人が生活しています。やらなければいけない支援を継続しながら、今回の経験を次の震災に活かすために準備することも大切な役割だと感じています。

精度保証は臨床検査技師にとって最も重要な仕事だと思っていますが、その成果への評価は認定技師制度の該当分野ができ10年経った今でも残念ながら低いままだと感じています。どれだけの労力をかけてどれだけの成果が挙げられているのかをどうやって示すかを考える必要性を感じています。

会員の声を聞きながら会員のための日臨技となるように活動することを心がけますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事 菊地 良介



令和6年度定時総会において令和6・7年度の日臨技理事を拝命いたしました岐阜県臨床検査技師会の菊地良介（岐阜大学医学部附属病院）と申します。

日臨技理事として2期目となります。任期中は前期と同様に国際担当理事として韓国・台湾をはじめアジア・欧州の臨床検査技師との交流を中心に活動を行いたいと思います。特に、2016年に神戸で開催したIFBLS 2016以来、10年振りとなる日臨技主幹でのIFBLS 2026開催に向けて関係者の方々と連携していきます。この10年で、新型コロナウイルスの世界的大流行を契機に臨床検査技術や学術活動の重要性が世界中で再認識されたと思います。IFBLS 2026を通して日本国内の臨床検査技術や学術活動の一端を海外にアピールできる絶好の機会と捉えて活動していきたいと考えております。

日臨技の土台となる活動を念頭に、一人でも多くの会員の皆さまに参加していただけるようなサポート体制等の整備に取り組みたいと考えております。

会員の皆さまからのご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

理事 藤田 孝

本年6月に開催されました定時総会におきまして、前期に引き続き理事を拝命いたしました愛知県臨床検査技師会の藤田孝です。どうぞよろしくお願いいたします。かねてより精度管理事業や精度保証施設認証で日臨技の業務のほんの一端を担わせていただいた関係からか、前期2年間では品質・精度保証委員会の業務や精度管理部会の業務などを担わせていただきました。今期も引き続き品質・精度保証委員会、精度管理事業を中心に業務を担わせていただくこととなります。神山執行理事のもと、精一杯務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

今回の役員改選では、会長をはじめ執行部が大きく交代されました。前期から引き続き務める理事として、継続性を大事にしなければならない事業は継承および更なる発展に寄与するとともに、新執行部のスローガンである「日臨技を再考し、会員とともに考え、会員とともに挑む」に貢献できるよう努めてまいりたいと考えております。

品質・精度保証を通じて国民の皆様の健康増進に努めるとともに、臨床検査の普及にも努め、子どもたちが将来臨床検査技師になりたいと思えるよう、微力ではありますが2年間勤めてまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

理事 宇城 研悟

この度、令和6・7年度の日臨技理事を拝命いたしました中部圏支部・三重県臨床検査技師会から選出の宇城研悟と申します。医療現場に質の高い、安全で信頼される臨床検査データを提供するために、品質保証、精度管理への取り組み、そして医療安全管理との連携は必要不可欠であり、今後の働きかけ次第で臨床検査技師の存在価値を国民から問われる大事な事項と考えております。これまで日臨技で品質・精度保証、標準化、精度管理調査、そして医療安全事業に携わってまいりましたが、より一層、横断的視野をもって臨床検査技師の価値を上げるために尽力していきたいと思っております。

一方で、臨床検査技師のコミュニケーション能力とノンテクニカルスキルの向上が、チーム医療での活躍、多職種連携やタスク・シフト/シェアを含む業務拡大を推進する上での大きな課題と考えております。今まで以上に多職種の医療従事者が集う学会や教育現場、そして公益事業を通じて国民に臨床検査技師の存在をしっかりとアピールすることの必要を感じております。地域社会に必要とされる臨床検査技師の育成を目指して取り組んで参りますので、何卒、皆様からのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事 川端 直樹

この度、日臨技理事を拝命いたしました福井県臨床衛生検査技師会所属、市立敦賀病院の川端直樹と申します。日臨技理事2期目となり、全国の日臨技会員の皆様から多くのことを学ばせていただき、またさらに見識を上げ理事としての職務に精進していきたいと思っております。

現在、臨床検査技師を取り巻く環境は大きな転換期ではないでしょうか。医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアでは、臨床検査技師にも新しい業務が付与されました。現行制度化で実施可能な業務に加え、法令改正に伴う業務の実践など、固定観念を捨て新しい価値観で臨床検査の創出が求められます。変化に伴う3つの「ふ」、不安・負担・不満を少しでも取り除くことができるよう、タスク・シフト/シェアをされる側だけでなく、する側の視点を含め取り組んでいきたいと思っております。

「やりたい事」から「求められる事」に軸足を移し、微力ではございますが今後の日臨技会員の皆様の発展に寄与できればと存じます。

ご支援、ご協力またご指導をよろしくお願いいたします。

理事 藤村 博和

この度、令和6・7年度の日臨技理事を拝命しました近畿支部・滋賀県臨床検査技師会の藤村博和です。

物事をもっと大きな視点で学ぶことを目指し参加した地域ニューリーダー研修会で、日臨技の仕事に興味が出てきて間もなく日臨技理事の推薦をいただくこととなりました。検査技師としての職能団体である日臨技、すでに入会されている皆様はもちろんのこと、わけあって未入会の皆様、退会された皆様も含めて、それぞれが日臨技に対してこれからどのように魅力を持っていたくのか今後とても重要であると考えます。急速に変化する医療情勢を見極めることは医療従事者として当然ですが、タスク・シフト/シェアだけではなく検査技師として新たな市場を開拓することやこれまで経験してきた土台をさらに盤石にすることは検査技師の専門性の確立や社会的地位向上にも寄与します。日臨技は検査技師を志望する未来の方々に明るい材料を提供していく必要がありますし、日臨技に入っていて良かったと感じてもらえるよう努力しなくてはなりません。今回、代表の交代にともない執行部が一新されています。新たな風を期待して会員の皆様にご承認をいただきましたので微力ではありますが尽力させていただく所存です。ご支援ご指導の程よろしくお願いいたします。

理事 今川 昇

この度、理事に就任いたしました京都府臨床検査技師会の今川昇でございます。

前期に続き、2期目の大役ではございますが、日臨技会員の皆様のお役に立てるよう努めてまいります。

さて、今期は横地会長新体制となります。アップグレードした組織によって、より良い会員目線の事業運営を目指してまいります。医療の多角化が進む中、予防医療へのシフトや人口減少問題・メディカルスタッフの不足が深刻化し、「省人化」が進みAIやロボットに代替されていくことは間違いないでしょう。そのような未来が現実視される中、臨床検査技師にできることや経験によって得られたアイデアが最新の技術に昇華されることを考えることが大切です。そのために多くの話し合いができる場を提供したいと思います。各種研修会・学会で新たに活躍ができる働き方やそのための教育の仕方など一緒に考えませんか？臨床検査技師の幅広い業務の強みを生かすチャンスだと思います。

簡単ですが、就任のご挨拶といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事 松田 武史

この度、日臨技の理事に就任する運びとなりました兵庫県臨床検査技師会の松田と申します。皆様のご指導とご支援により、この重要な任務を果たすことができるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

昨今の医療情勢は、技術の進歩とともに急速に変化しております。特に、AIやビッグデータの活用により、診断や治療の精度が飛躍的に向上しています。しかし、その一方で高齢化や新興感染症の拡大といった課題も依然として存在し、臨床検査技師としての役割がますます重要となっております。私たちの使命は、最先端の技術を駆使し、的確な診断と適切な治療をサポートすることであり、そのための知識と技術の向上に努めてまいります。

また、次世代育成にも力を注いでまいります。未来の臨床検査技師が確かな技術と倫理観を持ち、地域医療に貢献できるよう、教育環境の整備と実践的な研修の提供を推進してまいります。特に、若手技師の育成は私たちの組織の未来を担う重要な課題であり、全力を挙げて支援していく所存です。加えて、就労人口が減少していく中では人材の需要と供給のバランスが崩れることが危惧されており、そのような中でも職業としての魅力・認知度を高め、優秀な人材を獲得するために養成校と連携していくことも必要不可欠と考えます。

最後になりますが、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。共に手を携え、より良い医療の実現を目指して共に邁進してまいります。

理事 倉田 主税

この度、日臨技の理事に就任いたしました、奈良県臨床検査技師会の倉田主税です。会員の皆様には、当会の様々な活動にご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

会員の皆様にとって、安心して働ける環境を整えることが私の使命だと思っています。労働条件の改善や、専門性を高めるための研修機会の提供に力を入れてまいります。また、会員同士の交流を深め、情報共有の場を増やすことで、互いに支え合えるコミュニティを築いていきたいと考えています。

私たち臨床検査技師の地位向上は、医療の質を高めるために欠かせない課題です。技術の進歩とともに、私たちの役割はますます重要になっています。これからも、最新の知識と技術を習得し、医療現場での信頼を築いていくことが求められます。

患者さんに対しては、常に高い倫理観を持ち、正確で迅速な検査結果を提供することが私たちの責務です。患者さんの信頼を得るために、日々の業務に真摯に取り組み、医療チームの一員としての役割を果たし、臨床検査技師の未来を築いていけるよう今後とも、皆様のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事 栗林 伴有

令和6年度定時総会及び理事会におきまして理事を拝命しました和歌山県臨床検査技師会の栗林伴有と申します。理事としては新人ですので、私が普段から少し感じていることを書きます。臨床検査技師という人材が豊かな地域では感じないかもしれないのですが、和歌山県のような人口減少地域では人材不足は深刻であり、求人募集しても応募が全くない地域もあります。臨床検査技師は病院に間違いなく必要であり、これからの若者が臨床検査技師を目指すためにも、更に魅力ある職業であることを広報する必要があります。また、魅力を感じてもらうには勤務環境の改善も整えなければならないと思います。近年、業務の負担や対人関係など、ストレスによりメンタルヘルスを必要とする検査技師が一段と増加しているのを感じています。今後、更なる対策が必要となってくるのではないのでしょうか。

現在、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会にスタッフで参加しています。これからは、日臨技で得た知識や情報を知臨技に持ち帰り、日臨技事業を円滑に進められるように微力ではございますが努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

理事 湯田 範規

3期目の理事を務めます鳥取県臨床検査技師会の会長をしております湯田範規と申します。理事は会の活動の確認および監視を行う役目があります。また、会計に関しても適正な執行か監視を行ってまいります。会長が交代され執行部が新たになりました。横地会長の公約が執行されるように協力しながら、見ていきたいと思ひます。

令和7年は全国学会の学会長を務めさせていただきます。全国学会については地元で開催するか、中央で開催するか日臨技でも検討事項に上がっていますし、受ける際には多くの地臨技でも最初に当たる壁ではないかと思ひます。鳥取県は地元では会場が確保できず、展示会場の要件を満たさないため、日臨技の日本医学検査学会規程細則に則って中四国ブロックを離れて大阪で開催することといたしました。今後、小さな県が開催する際の試金石になるのではと考えています。このような経験を踏まえながら、全国学会のあり方、支部学会の運営について提案していきたいと考えています。日臨技の主役は会員の皆さんです。活動に興味を持っていただきご意見を頂戴できればと願っています。どうかよろしくお願いいたします。

将来的に生産年齢人口の減少により医療や介護の担い手が減っていくことが危惧されています。一方でAIの導入などにより医療業界も急速に業務が改善されることが期待されています。臨床検査技師も変化に富むこの時代を、一步二歩と前に踏みだして新たな道を開拓する必要があります。タスク・シフト/シェアの推進に取り組むことで、臨床検査技師の能力と可能性を広げ、何が求められ、何ができるのかを改めて考えていきたいと思います。

今期も引き続き認定臨床染色体遺伝子技師関連のWGに所属することになっております。前期の経験を活かし、認定技師事業のスムーズな運営に貢献できればと考えております。

“臨床”検査技師の生き残る道を模索し、医療現場の中で“臨床”検査技師の存在価値を高めることができるよう、今期も邁進してまいります。会員施設のほとんどは、中小規模施設となっている現状を踏まえ、中小規模施設出身の理事として、大規模施設にはない発想を会務に活かせればと考えております。

今後も会員の皆様方のご支援、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

理事 領家 敬子

この度、令和6年度定時総会において、令和6・7年度の理事に承認されました。鳥根県臨床検査技師会の領家敬子と申します。前期に引き続き2期目となります。新しい日臨技の執行体制のもとその責務を果たせるよう努めてまいります。令和6年4月より医師の働き方改革の新制度が施行されました。いよいよ、臨床検査技師に新たに認められたタスク・シフト/シェア業務が各医療現場においては医師の労働環境を改善するための取り組みとして、実運用を要望、期待する声が高まってきていることと思ひます。施設によって実運用に対する難しさは様々とは思ひますが、今後の臨床検査技師の働く場を拡大し若い世代が生き生きと活躍できるように今しっかりと基盤を作る必要があると感じます。厚生労働省の指定講習会修了者は現在全国で64%であり今後はその勢いが衰えていくことも予想されます。指定講習会をどのように実施すれば受講しやすくなるか体制整備等への協力を実施し、修了者を増やし業務拡大への基盤を作っていけるよう日臨技理事として、会員の皆様が前向きな気持ちをもって取り組んでいただけるよう微力ながら啓発活動に努めてまいります。

理事 樫山 誠也

この度、日臨技理事を拝命いたしました樫山誠也と申します。2期目の理事として前期とは違った責務を感じつつ、初心と向上心は変わらず務めます。広島県臨床検査技師会では学術担当副会長を承り、中四国支部の学術部長2期目を継続いたします。職場は約30年勤めました済生会から大学病院へ移籍し8年目になります。良きも悪きも学び、そして、それぞれの苦悩を諸先輩方の導きにより乗り越えてまいりました。今はこの貴重な経験を活かす場として日臨技での役割を与えられたと思い感謝するところです。

さて、長く感染症の現場で検査に従事してきたことで、その分野の法改正、認定制度、新しい微生物検査技師を創造することに携わってまいりました。COVID-19パンデミックからの昨今、本邦の遺伝子検査の確立と人材育成の必要性が課題と言われ、日臨技はその方向を前向きに誘導しなければなりません。微力ながら皆様とともに道を開きたい思ひです。

日臨技が遂行する事業は、日本国全体、および世界を見据えた活動であります。その活動の基礎は都道府県技師会の団結した組織力の上にあり、「組織力強化」という直面した課題に取り組むこととなります。会員の皆様の技師会離れや無関心化を我らが失策ととらえ、未来を担う臨床検査技師の責務を作り上げなくてはならないでしょう。2期目を向え、その与えられた担当事業の実行とともに、会員の技師会参加への道を開く策を進めたい思ひです。ひとりでは動かない意思を皆様とともに動かしましよう。どうぞよろしくお願いいたします。

理事 藤岡 克徳

この度、日臨技理事を拝命いたしました岡山県臨床検査技師会の藤岡克徳です。2期目となりましたが、気持ちも新たに日臨技理事として会務の遂行に努めてまいりたいと思っております。

理事 藤田 望

この度、日臨技理事3期目および中四国支部副支部長を拝命いたしました徳島県臨床検査技師会の藤田望と申します。

担当業務として、引き続き、臨地実習指導者講習会の開催や認定救急検査技師関連WG、また新たに予算委員会と災害対策WGも担当させていただくことになりました。災害時には、自助・共助・公助のそれぞれが連携し被害を軽減する減災への取り組みが重要となります。徳島県臨床検査技師会は南海トラフ地震を想定し、令和5年3月に徳島県と災害協定を締結しておりますが、平時から行政担当者と顔が見える関係性が構築されていたからこそ早期締結につながったと考えております。その経験を活かし、日臨技と地臨技の連携はもちろん行政や関連団体との連携強化に努めてまいりたいと考えております。

横地会長が掲げられている「会員とともに考え、会員とともに挑む」というスローガンを胸に、微力ではございますが、未来の臨床検査技師のため日臨技の発展と臨床検査技師の地位向上に尽力いたします。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事 宮川 朱美

この度、日本臨床衛生検査技師会理事を拝命いたしました香川県臨床検査技師会の宮川朱美と申します。連続しては2期目ですが、平成28年から1期務めさせていただいておりますので、計3期目となります。自身の環境が臨床現場から養成校になったこともあり、より柔軟な視点で会員の皆様のお役に立つことができるよう新たな気持ちで日臨技理事としての役割を務めたいと考えています。

今回も認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度に関わる委員会および季刊誌『ピペット』の編集を担当することになりました。認定の運営は、試験委員会および審議会の委員の先生方のご尽力により成り立っています。より円滑な運営ができるようサポートいたします。また、季刊誌『ピペット』につきましては、2013年の創刊から11年となりました。2020年Vol.27にリニューアルされ5年目を迎えます。一般の方にわかりやすい、そして、臨床検査技師の認知度をより高めることができる企画を考えてまいります。

引き続き2年間、微力ではありますが、臨床検査技師の明るい未来を目指し頑張りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事 井上 信行

この度、令和6・7年度の日臨技の理事に就任いたしました、愛媛県臨床検査技師会の井上信行と申します。この大役を仰せつかり、深い感動と責任を感じております。心より感謝申し上げます。

私たち臨床検査技師は、患者の命を支える重要な役割を担っています。パンデミックを経験した今、私たちの職務の重要性はさらに増しています。この大切な時期に理事として活動することは、私にとって誇りであり、挑戦でもあります。

これまで愛媛県臨床検査技師会において、地域医療の質を高めるために尽力してまいりました。地域の皆様と共に歩んできた日々は、私にとってかけがえのない財産であり、その経験は、全国の臨床検査技師の皆様との連携を深める上で大いに役立つものと確信しています。

理事としての任期中、私は以下の三つの柱を中心に活動を展開してまいります。第一に、技術の研鑽と最新知識の習得を通じて、臨床検査技師の専門性を一層高めること。日進月歩の医療技術の中で、私たちは常に最前線に立ち、患者に最良の医療を提供し続けなければなりません。第二に、地域医療との連携を強化し、全国どこにいても均一かつ質の高い医療が受けられる環境を整えること。第三に、次世代の技師を育成するための教育体制を整備し、未来の医療を担う人材を育てることです。

皆様のご支援とご協力が必要です。皆様の声を反映し、共に日本の医療の未来を築いていきたいと考えております。患者の健康と幸福を願い、全力を尽くすことをお約束いたします。何卒、変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事 高野 静香

この度、2期目の日臨技理事を拝命いたしました高知県臨床検査技師会の高野静香と申します。1期目は諸先輩方や事務局の皆様には沢山教わりながら、日臨技の組織体制や活動内容を理解し自分の役割をこなしていく事に必死でした。会員の皆様からの要望と日臨技組織の指針の間で、「やりたい事とやれる事は違う」という事を痛感し、理事としてどう対応していくか悩み、そして多くを学んだ2年間でした。今期はその学びと経験を活かし、新会長および執行部体制のもと、会員の皆様の声をしっかりと日臨技に届け、同時に日臨技の考え・方針も会員の皆様に理解していただけるよう尽力する所存です。

担当する事業といたしましては、認定心電図検査技師の各種委員会、広報事業など多岐に渡り仰せつかりました。柔軟な考えと対応力を持ち、次世代を担う臨床検査技師の育成や臨床検査技師の業務拡大・地位の向上に貢献できるよう努めてまいります。また、今期から女性理事が更に増えました。女性の視点からの新しい事業も展開できれば…と考えております。今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

理事 石隈 麻邪

令和6・7年度の日本臨床衛生検査技師会理事を拝命いたしました石隈麻邪（いしぐま まや）と申します。今期は、精度管理のサポート事業に関連するWGや教育研修委員会を担当させていただきます。また現在、佐賀県臨床検査技師会では副会長を務めております。

私たち臨床検査技師は、医療現場において常に最新の知識と技術を追求し、高い専門性を持って業務に取り組むことが求められています。品質担保の要として臨床検査には重要な精度管理業務への取り組みやタスク・シフト/シェアによる職域拡大、日々進化する検査技術への対応、チーム医療への参加など、臨床検査技師の業務も多様になっています。医療現場で求められる臨床検査技師として皆様が活躍できるように必要な情報や支援について把握し、伝達および環境や機会を提供できるように尽力いたします。あわせまして日臨技の事業運営を円滑に進めるためには都道府県技師会のご協力が不可欠であり、そのためにも連携強化は重要だと考えております。ともに歩みを進めていくことで、職能団体としての組織力強化にもつながるものと思います。微力ではございますが、連携強化にも努めていく所存です。

私自身は非才で未熟ではありますが、まずは職能団体としての役割を十分に理解し、諸先輩方にご助言をいただきながら理事としての活動にまい進したいと思います。会員皆様のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

**理事 田中 信次**

理事3期目を務めさせていただきます熊本県の田中信次と申します。今期は災害対策WG、厚生労働大臣指定講習会WGと人事委員会に所属させていただきます。指定講習会WGではタスク・シフト/シェア研修会の必要性を会員の皆様にご理解、受講いただけるように、検討し遂行したいと思います。また災害対策WGでは日臨技災害マニュアルの普及、都道府県災害マニュアル作成の推進、自治体との協力体制など都道府県技師会と連携したいと考えており、熊本地震の経験を生かせればと考えております。

今回は九州支部副支部長を拝命いたしました。九州各県技師会と連携し、学会、研修会の運営に、また会員の相互融和にも尽力したいと思います。微力ではありますが未来の臨床検査技師のために努力する所存です。ご支援、ご協力をお願いいたします。

**理事 丸山 晃二**

令和6年度定時総会にてご承認いただき、日臨技理事として2期目を拝命いたしました九州支部 大分県臨床検査技師会の丸山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。前期は右も左もわからない中、日臨技と大分県臨床検査技師会との橋渡しに加え、いくつかの委員会やWGの一員としての業務を担当させていただきましたが、正直なところ理事としての役割を果たせたとはいえ切れず、気持ちだけがから回りした2年間であつたと思っております。理事就任の際（令和4年度定時総会）、退任される理事の一人から、「何もわからないまま2年が過ぎ、少しわかってきたから発言しようと思ったら退任することになった」といった挨拶がございました。その言葉が頭に残っていたのですが、思うにコロナ禍により理事業務の十分な引き継ぎ、そして活動が行えなかったことからの発言ではないかと思っております。引き継ぎについては私も同様でしたので、各種委員会・WGにおいては、立ち位置を探りながらの活動となってしまったことから、同メンバーの皆様には大変ご迷惑をおかけしたことを思います。今期は2年間の経験を活かし、前向きにそして積極的に発言していきたいと思っております。

今期は横地会長を中心に、「会員とともに考え、会員とともに挑む」をスローガンとした新体制となり、「会員の声」がこれからの日臨技を動かす原動力になるものと思っております。会員から興味をもっていた魅力のある日臨技の組織体制作りに微力ながら尽力してまいります。所存でございます。

私は大分県技師会会長を併任し、また国立病院機構臨床検査技師協会九州支部長も併任していることから、国立病院機構の職員に対しても日臨技の活動を紹介し、啓発を進めていきたいと思っております。皆様からの引き続きのご指導ならびにご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

**理事 川崎 辰彦**

この度は、令和6年度日臨技定時総会において、令和6・7年度の理事に任命されました、長崎県臨床検査技師会副会長の川崎辰彦です。今回、初めての日臨技理事就任ですが、令和4年から長崎県臨床検査技師会副会長を務めさせていただいています。

今回の新日臨技執行部では、横地会長が「会員とともに考え、会員とともに挑む」をスローガンとして掲げられています。新日臨技執行部の方針に準拠し、日臨技会員の皆様の意見を取り入れながら、日臨技組織の一員として、日臨技活動に取り組んで行きたいと思っています。

長崎は2027年に第76回日本医学検査学会を出島メッセ長崎で開催する運びとなりました。現在、長崎市は九州新幹線の開通に伴い100年に一度の開港が進んでいます。長崎駅改札を出てすぐに出島メッセ長崎が隣接しており、非常にアクセスが良い会場となっています。これから現地開催として準備を進めて行きたいと思っていますので、全国から多数の皆様の参加をお待ちしています。



理事 花牟禮 富美雄



日臨技理事に就任いたしました宮崎県の花牟禮富美雄と申します。理事3期目になります。広報委員会、検査と健康展事業WG、全国・支部学会あり方WG、臨地実習あり方WGの委員と九州支部学術部長を担当させていただきます。広報委員会、検査と健康展事業WGは3期連続となりますが、昨年一般の方1,000名を対象に実施したアンケート調査では、私たち臨床検査技師の認知度は22.7%と低く、これまでの広報活動や全国「検査と健康展」を検証しつつ、臨床検査や臨床検査技師の認知度向上に努めてまいりたいと思います。患者さんや健診受診者の皆様を通して臨床検査技師を広く知っていただくことを会員全体で共有し、採血や検査、検査説明などの場面で「臨床検査技師」であることを名のることにより認知度向上を目指し「臨床検査技師を名のろうキャンペーン」を実施することになりました。募集したポスターも非常に良いものが選ばれましたので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。全国・支部学会のあり方、臨地実習のあり方においても検討すべき課題は重要と思いますので、現状について理解を深めWGの皆様と取り組んでいきたいと考えております。微力ではありますが、日臨技や日臨技会員の皆様のお役に立てるよう活動してまいりたいと思います。どうぞ、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

化し、未来の日臨技の発展に向けて微力ながら、会務を遂行していきます。ご支援・ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

理事 手登根 稔



令和6・7年度の理事を拝命いたしました沖縄県の手登根（てどこん）と申します。今回3期目となります。1期目はコロナ禍で理事会もほぼWeb開催でしたが、2期目から対面での理事会も再開され、漸く他の理事の方々ともコミュニケーションが取れるようになり、理事としての実感が湧いてきたところです。今回、執行部が入れ替わり、横地会長をはじめとする新執行部体制となりますが、横地会長のスローガンにもありますように「会員とともに歩み、会員とともに挑む」をモットーに、一般会員からの意見を吸い上げ、10年、20年先を見据えながら、明るい臨床検査の未来が開けるように、私も微力ながら尽力できればと考えております。宮島前会長がおっしゃられたように、理事は各都道府県とのパイプ役だけでなく、日臨技理事として会員のために何ができるか、理事としての自覚を高め、一人の力では何もできなくても、理事全員が一丸となって会員の皆様と共に挑むことにより、明るい未来が見えてくるものと確信いたします。

今期の私の役割は、前回に引き続き臨地実習指導者講習と血球携帯標準化WGや認定血液・認定骨髄検査技師制度協議会委員のほか、今回新たに診療報酬委員としての役割が加わりました。臨床検査業界もAI化や医療デジタルトランスフォーメーション（DX）の導入等、医療環境も大きく変わろうとする中で、我々は一致団結してこの状況を乗り越えていく必要があります。特に、会員の多くを占める女性技師やSNSに強い若手技師の力が求められており、女性部会の復活や青年部会の創設など、新たな発想や行動力に期待したいところです。

昨年、私は沖臨技会長として地元のラジオ番組にも出演させていただきましたが、臨床検査技師の知名度アップにはマスメディアを利用した広報活動の強化が必須だと痛感いたしました。現在、広報部で進めていただいております、『財前カオルの漫画全集（仮）』の製作等、臨床検査技師を大いにアピールできる活動に期待したいと存じます。

臨床検査技師の明るい未来と社会的な地位向上を目指して、微力ながら邁進していく所存でありますので、これからの2年間、何卒よろしくお願いいたします。

理事 田之頭 敏志



この度、令和6年度定時総会にて承認をいただき、日臨技理事を拝命いたしました。鹿児島県臨床検査技師会の田之頭敏志です。新任ですが、日臨技理事としてこの機会を活かして多くのことを学び、積極的に役割を果たしていきます。

現在の担当は、認定救急検査技師制度関連です。タスクシ・フト/シェアで新たな役割が増えて、医師、看護師をはじめ多くの医療関係の職種の方々とチーム医療で携わってこくことも増えてきます。救急の現場では、臨床検査技師に求められていることが多く、私たちもチームの一員として幅広く多くのことに携わることができ、今後さらなる活躍の場が多くあります。新たな臨床検査技師の未来の姿につながるよう努めていきます。

横地会長のスローガン「会員とともに考え、会員とともに挑む」を胸に刻み、日臨技と地臨技の連携を強

（編集後記）今年近年希に見る猛暑が続いており、連日熱中症警戒アラートが発令されていますが、執筆時点でいよいよパリオリンピックが開催しました！夏の太陽の下、熱戦が繰り広げられる様子は、想像するだけでワクワクします。パリの中心部で開催される競技も多く、きっと私たちに忘れられない感動を与えてくれることでしょう。日本選手にも是非活躍していただき、この歴史的な猛暑を吹き飛ばしたい所です。皆様、体調管理には十分気をつけて、スポーツの夏を楽しみましょう！（直田）